

総務委員会資料

1 所管理事者の紹介及び事業概要の説明

資料 1 臨海部国際戦略本部機構一覧

資料 2 臨海部国際戦略本部 事業概要

臨海部国際戦略本部

令和5年6月2日

【臨海部国際戦略本部機構一覧】

臨海部国際戦略本部長 玉井 一彦 2414【42000】	事業推進部長 岩間 尚史 2402【42100】	担当課長 [企画調整]	篠原 顕 3738【42101】
		担当課長 [臨海部企業連携]	三原 宜輝 3711【42201】
		担当課長 [広域事業調整]	小山 貴志 0524【42151】
担当部長 キングスカイフロントマネジメント センター所長事務取扱 嶋村 敏孝 276-9206【69123】	成長戦略推進部長 大山 啓祐 3551【42400】	担当課長 [戦略推進]	小沢 修一 3633【42401】
		担当課長 [連携推進]	間島 哲也 276-9207【69125】
		担当課長 [カーボンニュートラル推進]	江崎 哲弘 2095【42301】
	キングスカイフロントマネジメントセンター所長		
拠点整備推進部長 松川 一貴 2738【42700】	担当課長 [土地利用]	荒木 信博 3788【42701】	
	担当課長 [交通基盤]	若林 禎浩 2547【42801】	
担当理事 戦略拠点推進室長事務取扱 宮崎 伸哉 0230【42900】	戦略拠点推進室長	担当課長 [戦略拠点形成]	下田 真人 3594【42901】
		担当課長 [土地利用調整]	坂本 篤史 0253【42921】
		担当課長 [プロジェクト調整]	前原 敏慶 1568【42961】
		担当課長 [基盤・環境整備]	室井 弘通 1741【42941】

※ 一覧表中の4桁の数字はダイヤルイン、5桁の数字は内線番号です。

臨海部国際戦略本部 事業概要

臨海部国際戦略本部の事務分掌について

臨海部国際戦略本部

事業推進部

- (1) 本部の人事、予算及び決算に関すること。
- (2) 本部内の連絡調整及び事務改善に関すること。
- (3) 臨海部整備に係る調査、計画及び総合調整に関すること。
- (4) 臨海部における土地利用の誘導に関すること。
- (5) 本部民間活用事業者選定評価委員会に関すること。
- (6) 本部内他の部の主管に属しないこと。

成長戦略推進部

- (1) 国際戦略拠点の形成の推進に係る総合調整に関すること。
- (2) 国際戦略総合特区の推進に係る総合調整に関すること。
- (3) 国家戦略特区の推進に係る総合調整(健康・医療分野に限る。)に関すること。
- (4) 臨海部の産業に係るカーボンニュートラルの推進に関すること。
- (5) キングスカイフロントマネジメントセンターとの連絡調整に関すること。

キングスカイフロントマネジメントセンター

- (1) 国際戦略拠点の形成の推進に係る調整に関すること。
- (2) 国際戦略拠点における立地企業等との連絡調整に関すること。
- (3) ナノ医療イノベーションセンターに関すること。

拠点整備推進部

- (1) 臨海部の都市基盤の整備の推進に関すること。
- (2) 臨海部と羽田空港周辺との連携強化に係る調整に関すること。
- (3) 都市再生特別措置法に基づく羽田空港南・川崎殿町・大師河原地域に係る計画及び総合調整並びに浜川崎駅周辺地域に係る総合調整に関すること。

戦略拠点推進室

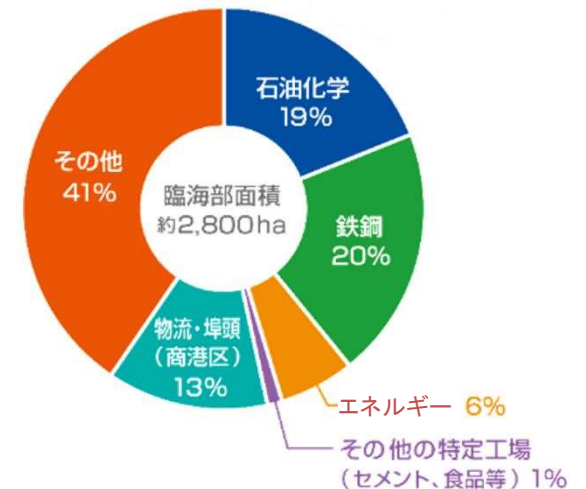
- (1) 臨海部における新産業創出等に係る戦略拠点の形成の推進に関すること。
- (2) 臨海部における大規模土地利用に係る計画及び総合調整に関すること。
- (3) 都市再生特別措置法に基づく浜川崎駅周辺地域に係る計画に関すること。

川崎臨海部の概況

- 1 川崎臨海部: 横浜・川崎臨海部 約4,000haのうち、約2,800ha
- 2 土地利用のうち約46%が石油精製・化学、鉄鋼、エネルギー等で構成
- 3 多様な発電施設が集積(発電能力: 約772万kW)



川崎臨海部の土地利用



1 策定

平成30(2018)年3月

2 目的

川崎臨海部を、川崎市のまちづくりの基本目標のひとつである「力強い産業都市づくり」の中心的な役割を担う地域として、さらには日本の成長を牽引する「産業と環境が高度に調和する地域」として持続的に発展させるため、30年後を見据えた臨海部の目指す将来像やその実現に向けた戦略、取組の方向性を示すために策定

3 構成

(1) 30年後の将来像

- ア 豊かさを実現をする産業が躍動
- イ 多様な人材や文化が共鳴

(2) 基本戦略(「30年後の将来像」の実現に向け、今後取り組むべき方向性を提示)

- ア 豊かさを実現する産業が躍動・・・次世代の柱となる新産業の創出 など
- イ 多様な人材や文化が共鳴 ...市民が誇れる開かれた臨海部づくり など
- ウ 産業や生活を下支え ...臨海部の発展を支える交通機能の強化 など

(3) リーディングプロジェクト

「基本戦略」に基づき、直近10年以内に先導的・モデル的に取り組むプロジェクト

4 リーディングプロジェクトの改定

川崎臨海部を取り巻く環境変化を踏まえ、令和5(2023)年6月に改定

臨海部ビジョン策定以降、リーディングプロジェクトに基づく取組を推進

ア 土地利用転換・再投資を促進する制度の構築



産業競争力強化促進
補助金制度の策定
⇒約130億円の
新たな設備投資を
喚起

川崎臨海部産業競争力強化促進補助金

イ 技能継承を促す教育プログラムの実施



安全体感研修

企業の枠を超えた、
臨海部企業が誰でも
参加できる
講座・研修プログラムの
開発

ウ 路上駐車解消や環境美化促進のための抜本的な対策



Park-PFI制度を活用
した緑道の環境改善と
交通レスト機能の導入
(塩浜3丁目周辺地区)
※7月供用開始予定

エ 次世代を担う子ども達に向けた学習 機会の仕組みの確立



見学・体験ツアー型プログラム

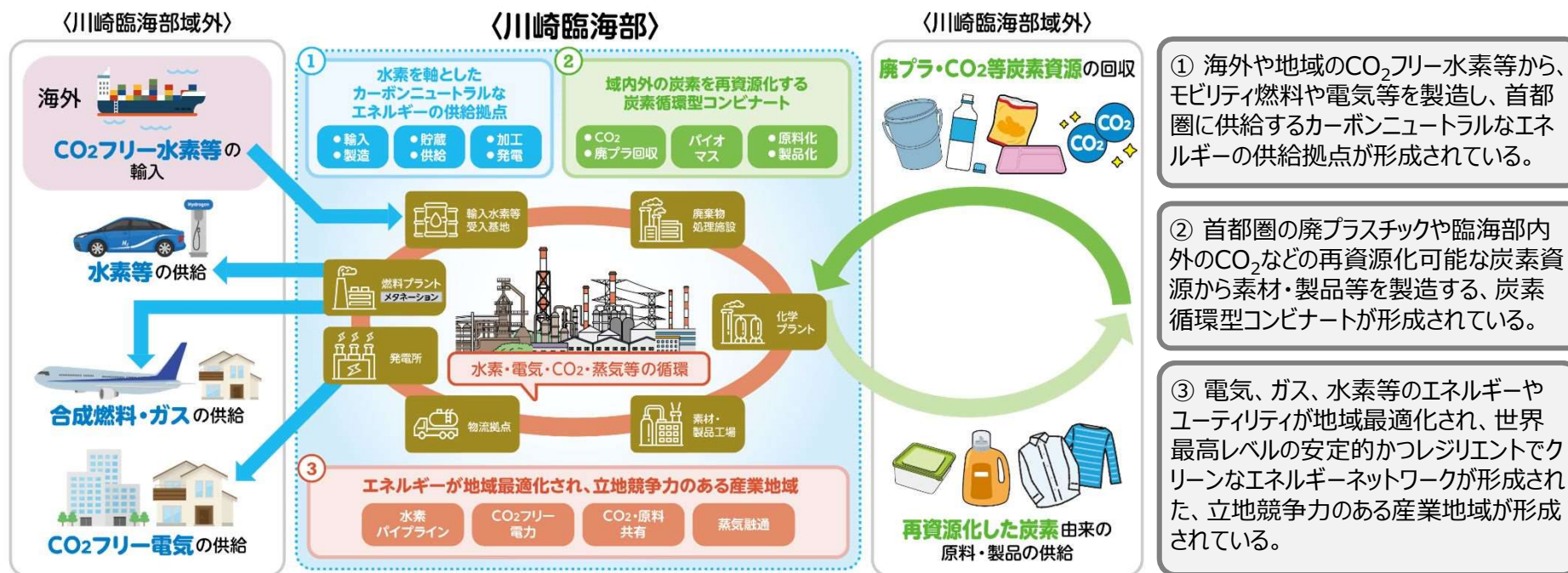
次世代の人材を育てる
新たなキャリア形成支援
プログラム(しごとスタイル
プログラム)の企画・
実施

川崎カーボンニュートラルコンビナート構想①【これまでの取組】

成長戦略推進部

- 1 平成27(2015)年に、全国に先駆けて「川崎水素戦略」策定
- 2 平成30(2018)年に策定した「臨海部ビジョン」のリーディングプロジェクトとして、低炭素型インダストリーエリア構築プロジェクト、水素エネルギー利用推進プロジェクトを推進
- 3 世界的な脱炭素化の加速や日本政府「カーボンニュートラル宣言」(R2.10)等の動きを踏まえ、令和4(2022)年3月に「川崎カーボンニュートラルコンビナート構想」を策定

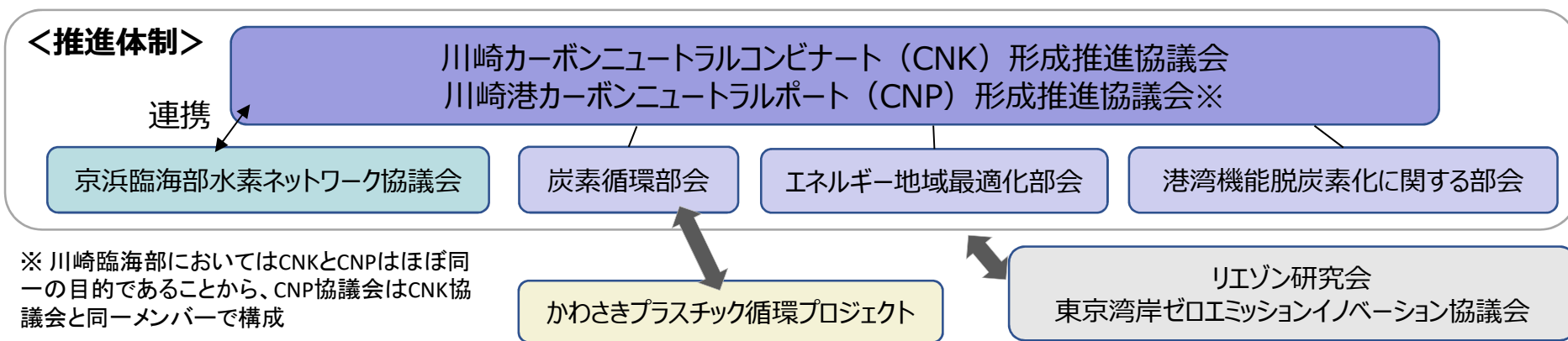
【2050年の川崎臨海部の将来像（イメージ）】



川崎カーボンニュートラルコンビナート構想②【令和5年度の予定】

成長戦略推進部

- 1 「川崎カーボンニュートラルコンビナート形成推進協議会」(官民協議会)において、企業間連携によるプロジェクトを推進
- 2 横浜市・東京都・大田区を含む東京湾岸地域で、水素利用を中心とした連携を推進

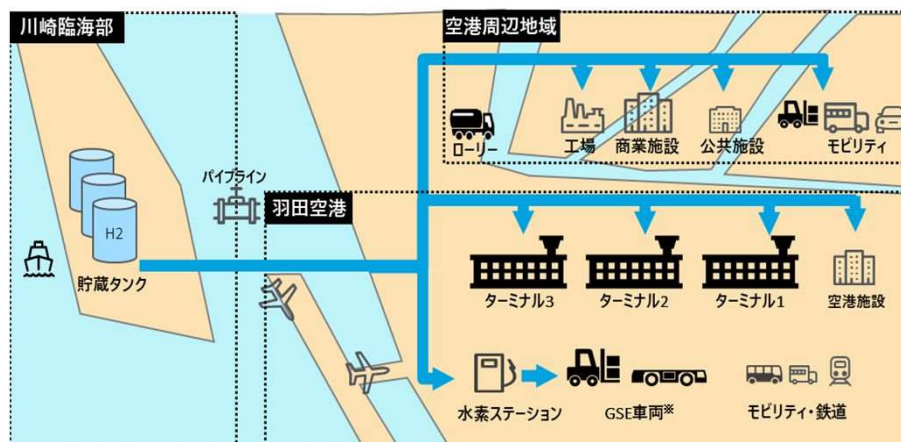


横浜市 水素等の利活用拡大に向けた協定を締結済 (R4.7)



東京都

大田区及び関係企業と連携して羽田空港及び周辺地区における水素利用調査を実施 (~R5.9)



殿町国際戦略拠点キングスカイフロントの取組

成長戦略推進部

いすゞ自動車工場跡地を健康・医療・福祉、環境分野の国際戦略拠点とするため

- 1 国の制度や研究プログラムを活用しながら、誘致活動を展開し、70機関が集積
- 2 エリアマネジメント(立地機関連携)及びクラスター化推進(ビジネス創出)の取組
- 3 令和4年3月の多摩川スカイブリッジ開通を契機とする羽田側地区との連携を開始



キングスカイフロントにおけるイノベーション・エコシステム構築の取組

成長戦略推進部

キングスカイフロントならではのイノベーション・エコシステムを構築するために

- 1 キングスカイフロント域内外の連携促進に向けた取組
- 2 エリアマネジメントの円滑な実施
- 3 イノベーション拠点の成長に向けた取組の推進

キングスカイフロント域内外の連携促進に向けた取組

- 新たな国支援策の獲得や活用
- マッチング事業や研究会
- 羽田エリアとの産業連携
- 海外のクラスターとの交流



多摩川スカイブリッジ

エリアマネジメントの円滑な実施

- キングスカイフロントネットワーク協議会の運営支援
- 域内の連携促進
- 情報発信
- 利便性向上に向けたサポート機能の充実



LINK-Jコミュニケーションラウンジ

イノベーション拠点の成長に向けた取組の推進

- スタートアップを含む研究機関の誘致
- 事業者と連携したインキュベーション事業の推進及び周辺地域への立地促進
- シェアラボ等、最先端の研究者を継続的に呼び込む取組




シェアラボ施設

臨海部の交通機能強化①【これまでの取組】 拠点整備推進部

- 1 臨海部の持続的な発展を支える交通機能強化の実現に向けて、「臨海部の交通機能強化に向けた実施方針(令和3年3月策定)」(以下、「実施方針」という)に基づき、取組を推進
- 2 これまで、交通拠点の整備に取り組むとともに、新規バス路線の開設や連節バスによるBRTを導入

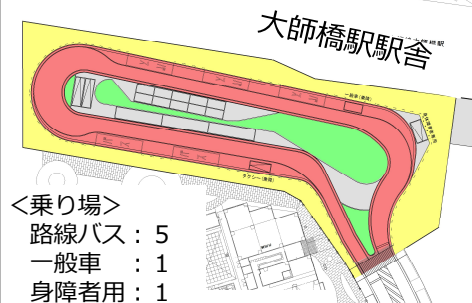
②バス路線の開設(天空橋駅行き路線バス)
 大師橋駅 ~ 天空橋駅間
 浮島バスターミナル~天空橋駅間
 (キグスカイフロント経由)
2022.4.1運行開始



実施方針
交通ネットワーク形成図



①交通拠点の整備(大師橋駅前交通広場)



- ・交通管理者協議完了
- ・占用工事に一部着手
- ・駅舎工事完了後に、広場整備を予定(令和6年度末完成目標)

<乗り場>
 路線バス : 5
 一般車 : 1
 身障者用 : 1
 タクシー : 1(待機所 : 10)

③基幹的交通【BRT】の導入(連節バス)
 川崎駅~水江町間 **2023.3.1運行開始**



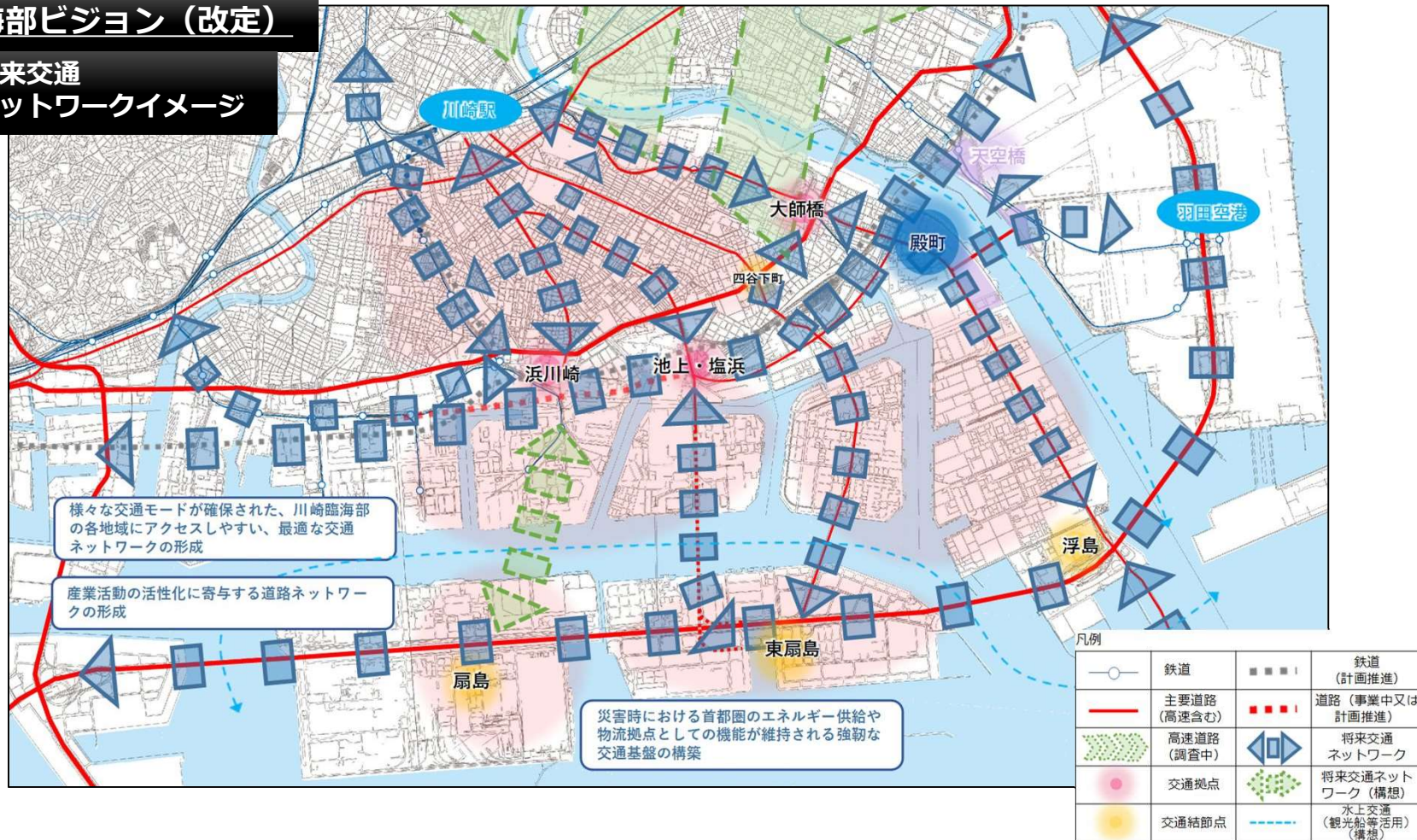
- 速達性の向上(表定速度)
 約11.5km/h ⇒ **約15.9km/h**
 ※朝ラッシュ時 **(約1.4倍)**
 (現行の急行バスは約15.5km/h)
- 輸送力の向上(バス定員)
 約80名 ⇒ **114名(約1.4倍)**

臨海部の交通機能強化 ② 【令和5年度の取組】 拠点整備推進部

- 1 大規模土地利用転換を踏まえた、将来交通ネットワークの形成に向けた取組を推進
- 2 将来交通量の増加等により交通課題が生じる箇所の抽出等、調査分析を実施
- 3 令和6年度に予定されている「川崎市総合都市交通計画」の改定に合わせた、「実施方針」の改定作業を推進

臨海部ビジョン（改定）

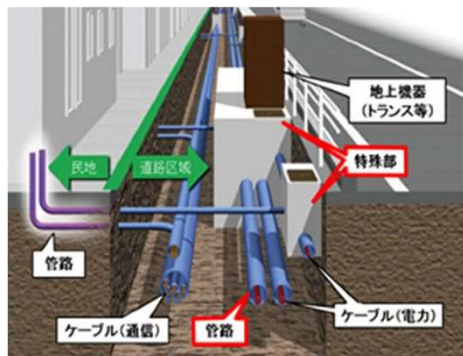
将来交通ネットワークイメージ



キングスカイフロントにおける高水準・高機能な拠点整備 拠点整備推進部

国際戦略拠点に相応しい良好な景観形成及び防災力の向上、国内外からの来訪者の利便性に配慮した機能導入など、高水準・高機能な拠点整備の取組

●電線類地中化



H29～R5 本体管路の整備
R2～R5 引込管路の整備
電線類地中化完了後、電柱を撤去

●エントランスの整備



R3 整備

●案内サイン



H29、R4 整備



●水辺の憩い・空間



H30 整備

●公園の改修



H29、R2 整備



R4 南側整備 R5 北側整備

塩浜3丁目周辺地区における交通レスト機能の導入

拠点整備推進部

- 1 皐橋水江町線沿道における都市公園法に基づく公募設置管理制度 (Park-PFI) を活用した交通レスト機能の導入
- 2 殿町夜光線を先行モデルとした社会実験を実施し、路上駐停車抑制対策に向けた取組を推進

● 皐橋水江町線沿道におけるPark-PFI事業



整備イメージ

令和4年度 業者決定
令和5年度 7月供用開始予定

● 殿町夜光線における路上駐停車の抑制対策



社会実験期間中の道路状況



仮設トラック待機所の利用状況

令和4年度 社会実験
令和5年度 実装に向けた取組

J F E スチールの高炉等休止に伴う 大規模土地利用転換の推進

戦略拠点推進室

- 1 臨海部の持続的発展を牽引する新産業拠点の形成
- 2 陸海空の結節点としてのポテンシャルを活かした新しい価値・技術の創造

●南渡田地区

【目標：令和9年度一部供用開始】

- ・令和4年8月に**拠点整備基本計画**を策定し、革新的な素材の研究開発・製造機能など、**素材産業を軸に**社会課題の解決及び国際競争力の強化を実現する「**マテリアル（素材）から世界を変える産業拠点**」の形成を目指す。
- ・令和5年3月には先行地区である北地区北側の事業者を決定。令和9年度まちびらきに向け、着実に事業推進を図る。

●周辺地区

【目標：早期事業開始】

- ・リサイクルをはじめとする産業の集積や主要交通インフラとの近接といった現状の特性を活かしながら、臨海部全体で求められる機能に寄与することを目指す。

池上町
扇町
水江町
南渡田

扇島北

扇島南（川崎側）

●扇島地区

【目標：令和10年度までに一部土地利用開始】

- ・カーボンニュートラルに取り組む基盤や陸海空の結節点となり得る地理的優位性を活かし、「**未来志向の土地利用を通じて**、平時は『地球温暖化の進行』、『産業構造の転換』など**我が国の重点課題の解決と国際社会におけるプレゼンスを高め**、災害時には**首都圏を守る要**となること」を目指す。
- ・令和5年9月予定の高炉等休止までに土地利用方針を策定